



終戦から70年となる8月15日、市役所本庁舎前にある「平和への絆」の鉦を打ち鳴らした國島市長。

この日のほか、広島と長崎に原爆が投下された8月6日と9日、高山市平和の日の9月21日、東日本大震災が起きた3月11日など、平和を願い鉦を打ち鳴らしています。

平和は与えられるものではない、自ら行動を

不戦と非核、平和への願いを

次世代に継承しましょう

高山市長 國島 芳明

9月21日の「高山市平和の日」を迎えるにあたり、國島市長に平和への思いをインタビューしました

平和を願う3つの理由

―市長の平和への思いの源は何でしょうか。

市長 まずは日本国憲法の前文に恒久の平和を念願し、とうたつてあります。私たち国民の基本です。

次は私の父親への思いからですが、父は満州やシベリア抑留を経て復員しました。その後、私が生まれたのですが、父に戦争中のことを聞いても語ってくれませんでした。寡黙にさせるほどの傷を負わせた戦争を二度と起こしてはならない。世界には同じ思いをする人々が大勢います。

もう一つは観光です。観光は平和へのパスポートと言われますが、異文化への理解が世界平和へ大きな役割を果たします。また、平和でなければ観光は成り立ちません。平和でなければ観光客は高山を訪れず、また、高山のいいモノを海外に売ろうとしても商売は成り立ちません。そういった意味からも、とりわけ高山市は平和の恩恵に感謝し、平和を広く訴えていく必要があると思っています。

―平和をアピールする取り組みは。

市長 平和のシンボル「平和への絆」を作ったり、平和の日を制定することも同様ですが、何か行動しなければならぬと思います。どこかの誰かが平和を作って

くれるのではなく、自ら動き、そして、平和のために私たちができることは何なのかを考えてください。その一人ひとりの思いと願いを地球規模に広げたとき、国際平和はぐっと近づきます。

戦争を風化させない

―戦後70年。遺族の高齢化が進み戦争を経験していない人々が増えています。

市長 国民の多くが戦後生まれです。戦争を風化させない取り組みは全国で行われていますが、市内小・中学校でも平和学習が行われているほか、今年からは戦没者追悼式に中学生が参加されました。大変ありがたいことです。このような平和のバトンをつなげていく取り組みは市として精一杯やっていかなければなりません。



5月26日に開催された市戦没者追悼式に丹生川中学校3年生のみなさんが参加しました

高山市平和の日(9月21日)の正午に平和への願いを込めて「平和への絆」の鉦の打ち鳴らしを行います。ぜひご参加ください。また、同時刻に市内外の寺院などのご協力により、平和を祈念する一斉鐘打が行われます。